

平成20年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール大会
第61回全国高等学校バスケットボール選手権大会

彩夏到来 08 埼玉総体



平成20年7月30日(水) 二回戦

Bコート 第3試合 深谷総合体育館(深谷ビッグタートル)

チームA		13 - 28 23 - 19 17 - 30 18 - 30	チームB
昌平	71	107	県立能代工業
埼玉			秋田

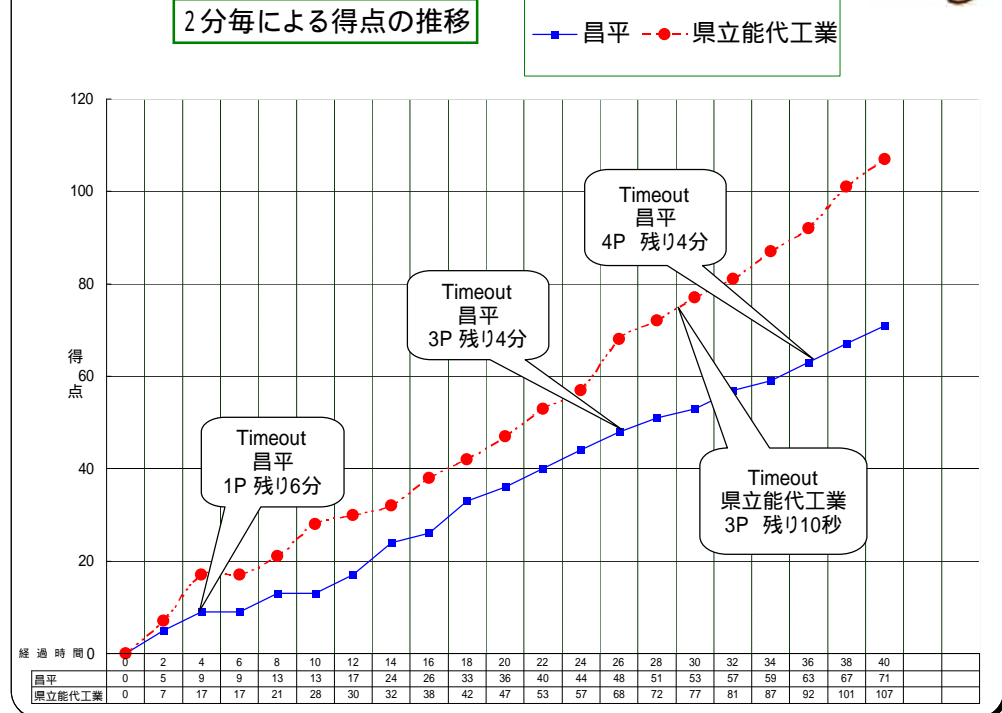
昌平

番号	氏名	出場	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		TO	ST	AS	BS	出場時間 単位:分
				成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF					
4	馬場 健司	X	36	0	0	18	27	0	0	3	5	8	1	4	1	4	40
5	中居 秀貴	X	14	1	8	4	8	3	3	5	1	5	3	1	1	0	35
6	谷口 直紀	/	0	0	0	0	1	0	0	0	0	4	0	0	0	0	8
7	牧野 駿平	/	5	1	3	1	2	0	0	0	1	0	1	0	0	2	13
8	金井 研人	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
9	田中 優二	/	5	1	2	1	6	0	0	1	1	1	3	0	2	0	21
10	吉岡 悟	X	0	0	0	0	3	0	0	4	1	1	2	0	4	0	15
11	中村 恒貴	X	3	1	3	0	2	0	0	1	0	2	3	0	3	0	21
12	西谷 奨斗	/	4	0	2	2	5	0	0	3	0	3	9	1	2	0	26
13	大竹 正道	X	4	0	0	2	3	0	2	3	1	1	0	0	1	0	21
14	柏木 淳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
15	八木 健吾	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
コーチ	畔川 秀雄									0	0	2					
出場: ×は先発、/は出場			71	4	18	28	57	3	5	20	10	27	22	6	14	6	200
確率				22.2%		49.1%		60.0%			計	37					

県立能代工業

番号	氏名	出場	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		TO	ST	AS	BS	出場時間 単位:分
				成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF					
4	高橋 陽	X	9	1	3	3	4	0	0	2	0	6	3	3	3	0	32
5	武藤 修平	X	21	0	0	9	12	3	4	3	1	9	4	3	1	1	25
6	館山 健太	X	26	5	7	4	9	3	3	1	1	5	5	1	5	3	28
7	飯田 啓人	X	2	0	1	0	1	2	2	1	3	1	1	0	1	1	19
8	宮城 大喜	/	12	1	2	3	5	3	4	0	0	1	1	0	3	1	24
9	湊 大樹	X	8	1	3	2	5	1	2	2	0	1	0	0	1	0	15
10	小川 昌志	/	2	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	3
11	藤田 洸	/	8	0	0	3	3	2	2	0	0	0	0	1	0	1	9
12	伊藤 伸高	/	13	1	3	3	5	4	4	2	0	0	1	1	3	0	29
13	保坂 健太	/	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	7
14	廣江 翔平	/	2	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
15	西島 宏哉	/	4	0	0	2	4	0	0	0	2	2	1	0	0	0	6
コーチ	佐藤 信長									0	2	3					
出場: ×は先発、/は出場			107	9	20	31	50	18	21	11	9	29	18	9	19	7	200
確率				45.0%		62.0%		85.7%			計	38					

2分毎による得点の推移



戦評

初戦を大差で勝った両チームの一戦。速い展開を得意とする両チーム、地元昌平高校の活躍に期待が高まる。
第1P、能代工業#5武藤のローポストからの1対1バスケットカウントで始まった。両チーム共ハーフコートマンツーマン。序盤は能代工業が速い展開や#6館山の3Pシュートでペースを掴む。昌平は9対17とリードされたところでタイムアウト。タイムアウト後2-3ゾーンディフェンスにするが、能代工業はドライブインからの合わせ等で加点する。一方昌平は、シュートが決まらず、13対28と差が広がって第1P終了。
第2P、マンツーマンに戻した昌平は、オフェンスリバウンドを頑張り、合わせのプレイもでてきて、リズムに乗る。しかし、能代工業も1対1で着実に加点していき、1-2-1-1ゾーンプレスでディフェンスの変化も見せた。リズムが出てきた昌平が追い上げ、一進一退の攻防が続くが47対36と能代工業リードで前半終了。
第3P、能代工業は1-2-2のゾーンプレスからスティールを狙い、リズムを掴もうとする昌平は、#5中居の3Pや#4馬場の1対1で応戦する。しかし、能代工業は、要所で#6館山から、ゴール下の#5武藤へのパスがとあり、加点。その後も能代工業ペースで77対53と差が広がって第3P終了。
第4P、昌平は#4馬場が1対1で頑張るが能代工業のスティールからの速攻やアウトサイドシュートで流れは変わらない。71対107と差がひらき、能代工業が勝利した。

主審	清水 幹治	副審	谷古宇 孝	戦評	佐藤 政徳 (埼玉県高体連)
----	-------	----	-------	----	----------------

3P: スリーポイントシュート、2P: 2ポイントシュート、FT: フリースロー、OF: オフェンス、DF: ディフェンス、TO: ターンオーバー、ST: スティール、AS: アシスト、BS: ブロックショット